とりまとめのイメージ

（１）広葉樹の利活用を進める上でのポイントは、
『入口（樹種、径級）の多様性と、出口（家具・床・内装等～薪炭・チップ・おが粉等）の多様性の中で、いかに最も価値の高いサプライチェーンを構築するか』ではないか。

（２）広葉樹の利活用について一定の成果が見られている地域は、川上・川中・川下のそれぞれの立場の者がコンソーシアムを組むこと等により連携して、消費者へのアピールや、サプライチェーンの構築に取り組んでいる。

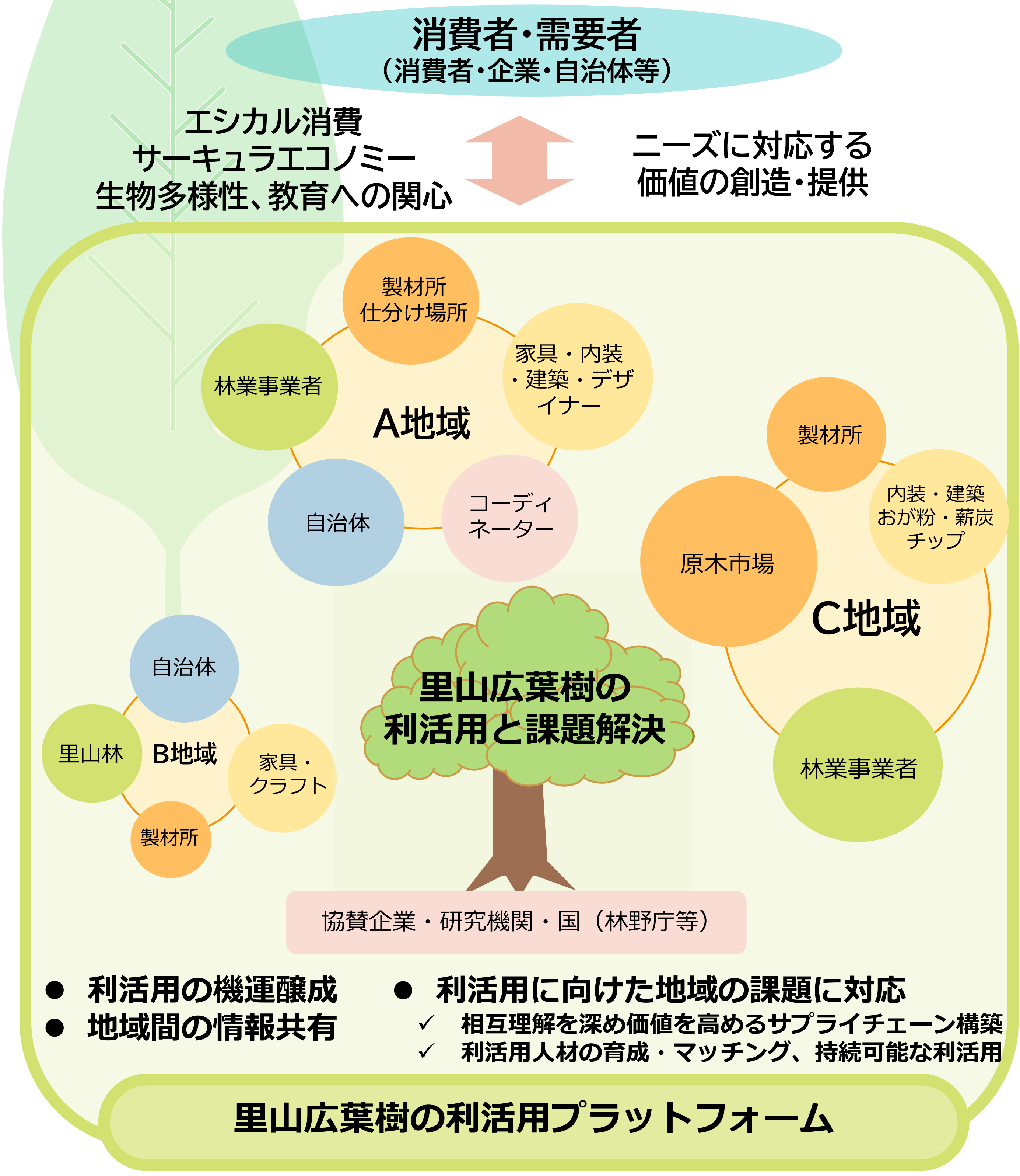
（３）現在の取組はまだそれぞれの地域が「点」で進めている段階で、多くの困難も抱えており、共通する課題も多い。

（４）このため、各地域での取組を情報共有・ネットワーク化するとともに、利活用の機運醸成や、地域横断的に共通課題の解決に取り組む必要がある。

<table>
<tr><th></th><th>需要側
（消費者、企業）</th><th>供給側
（林業、木材産業）</th></tr>
<tr><td>情報共有と発信</td><td colspan="2">① 広葉樹林の利活用の機運醸成
② 各地域の取組の情報共有・ネットワーク化</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域の課題への対応
（需要と供給
量と質）</td><td colspan="2">③ 利活用に向けた地域の課題への対応
・ 相互の理解を深め、価値を高めるサプライチェーン
・ 利活用人材の育成・マッチング
・ 持続可能な利活用（施業実践や知見の蓄積など）</td></tr>
<tr><td>【ニーズ】
・エシカル消費・教育
・持続可能性、生物多様性
・安定した量と品質</td><td>【課題】
・ニーズに対応する価値の提供
・持続可能な施業実践・知見蓄積
・品質別に仕分けし量をまとめる</td></tr>
</table>

（５）これらに取り組むための「プラットフォーム」を立ち上げてはどうか。

（以上）

里山広葉樹の利活用に向けて

各地域の取組を情報共有・ネットワーク化するとともに、機運の醸成や、地域横断的に共通課題の解決に取り組む場（プラットフォーム）を設定